

2023（令和5）年度 学校経営計画

1 めざす学校像

<p>教育目標</p> <p>憲法及び教育基本法に則り、学園がこれまで築き上げてきた「人間尊重」の歴史に学び、現代社会を強く生き抜く人間を育てる為、教育目標を次のように定める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 民主的な社会の形成者として必要な基礎学力を培う。 2) 仲間とのふれあいの中から、明るく豊かな心と創造性を養い、主体性と個性豊かな人間を育てる。 3) 生きる強さと人間的優しさを備えた心身共に健康な人間を育てる。 4) 他国の文化や生き方に学び、広い視野に立って地球環境と平和を守るために世界の人々と協力できる人間を育てる。
--

2 教育目標を実現するために(中期的目標)

<p>1 教育内容の充実 地域に信頼され誇りとされる学校を目指すために、基本的な教育内容の徹底及び教職員の資質向上し教育内容を充実させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生徒指導の充実：将来の自立に向け、基本的な生活習慣の確立、マナー意識、規範意識を育む。また、誰にでも挨拶ができ、男女や年齢に関係なくコミュニケーションがとれる生徒を育成する。 2) 学習指導の充実：新学習指導要領に基づく新カリキュラムについて、各教科・教務が中心となり、教学内容のさらなる充実を図るための検討を行う。 3) 進路指導の充実：中堅進学校として大学進学実績の向上をめざす。4年制大学への進学率を75%以上に。国公立大学や難関私立大学、中堅私立大学、さらには志望の多い看護・医療系、薬学部への合格実績をあげる。そのために、目標達成に向けて努力する態度を養い、志望校合格に向け最後まで挑戦する姿勢・意欲を生み出しサポートする。一昨年度導入された大学共通テストについて情報を収集し、生徒に適切な指導ができるよう分析をする。大学進学実績向上のためにも、英検やTOEIC、NEWS 時事能力検定といった検定に積極的に取り組み、実力テストの事前・事後指導と分析をしっかり行う。 4) 行事の充実：体育祭の外部室内施設での実施計画を実行する。また、生徒自らが意欲的に取り組む行事の拡充や外部団体とのコラボ企画の研究を進める。 5) 情操教育の充実：文化行事や講演会を企画し、情操教育の充実を図る。 6) 教職員の資質向上：挨拶やコミュニケーション能力を高める。教科での授業力の強化に向けて各種研修会等への参加を啓発する。 7) 主権者教育・消費者教育・金融教育の充実
<p>2 グローバル人材の育成 今後さらに加速するグローバル社会の中で活躍できる人材育成の為に施策を充実させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 英語資格試験取得の促進：オンライン英会話の活用、検定対策講座、各種検定の研究と精査を行い 拡充させる。 2) 海外での活動プログラムの拡充：高校海外修学旅行の実施と新方面の開拓、短期留学プログラム・交換留学など長期留学プログラムの拡充を行う。 3) ダイバーシティ理解教育の拡充：ダイバーシティを理解し、その中で活躍していける人材を育成する。 4) 国内・校内を含めたグローバル体験プログラムの拡充：海外生徒との交流機会を増やし、国内プログラムの情報提供と参加を奨励する。 5) 海外大学進学者を増やす取組の拡充：生徒保護者への海外進学の重要性の認識を高め、台湾・マレーシアを軸に海外進学拡充に向けた施策を行う。
<p>3 DX戦略の推進 生徒の授業面、そして学園の校務全体について、総合的なDX戦略を策定しICT化の推進を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教学関連：個人向けモバイルの活用として、学力、探究心向上に向けた効果的な使用法を研究する。また、生徒・保護者・教職員の連携ツールとしての活用の拡充を進める。プログラミング教育の取り組みの拡充を行う。学園DX戦略の策定し、より快適にICTを活用できる環境整備を行う。 2) 行事関連：オンライン授業、行事の動画配信や記録、各教室への情報発信・共有方法の研究と拡充を行う。 3) 職務関連：教職員の業務を効率化し各部署・部門間の連携の強化に取り組む。会議での活用なども含めて業務の軽減化により教学力アップに繋げる。 4) 施設関連：教室、生徒、教職員の環境等の保守と整備を行う。今後の学園DX戦略の策定し、より快適にICTを活用できる環境整備を行う。 5) 学園としてのトータルデザインの策定：生徒・保護者・教職員が連携し活用できるシステムの構築と施設のトータルデザインと保守整備計画の策定を行う。
<p>4 環境の整備 地域、生徒、保護者、教職員など誰からも信頼される魅力ある学園を支えるハード、ソフト両面での環境整備計画を策定し実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教育環境整備：生徒保護者のニーズに合った教育環境整備に取り組む。いじめのない学校づくりの推進を目指し、「いじめ対策基本方針」に沿って生徒にはアンケート実施や中学生には通報システムを導入して早期発見に努める。部活動の活性化を図る。校則の検討と見直し、放課後学習サポートの拡充を図る。 2) 施設環境整備：施設補修・新規工事の年次計画を策定する。食堂棟の新設、特別棟の改修リニューアル工事、講堂の耐震リニューアル工事について、教学環境への影響を最小限にして行う。グラウンドやテニスコートの人工芝化の工事計画の策定と自転車置き場の屋根設置の検討を行う。 3) 生徒のメンタルケア：生徒相談室・カウンセリングの拡充、生徒の居場所づくりの推進、傾聴などの対応において教職員の資質向上に向けて取り組む。 4) 学校評価制度の拡充：生徒保護者、教職員対象で実施しているアンケート方法と実施後の評価についての検証と見直しを行う。 5) 災害時用品の備蓄の拡充：法人本部と連携して、学園に必要な災害時用品の備蓄を進める。
<p>5 経営基盤の確立 持続的・継続的に安定した学校運営を行う為に、健全な財務状況の確立を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人事管理：教職員の採用・人事配置・定数管理・人件費率等、適正に管理する。 2) 財務運営：適正な予算執行を行い健全な財務運営を行う。経費節減、人件費率の抑制に努め、施設整備計画を策定する。 3) 生徒募集：計画的に募集生徒数を決定し、募集活動の拡充と目標入学生徒数(次年度は中学70名、高校430名)を獲得する。学園の魅力作りに取り組む。 4) 組織運営：法人内での中・高・大の連携を強化し、属人化から脱却に向けた組織づくりを行う。規程などの整備、見直しにも取り組む。 5) 計画・施策の実行力を向上させる：学園の取り組むべき最重要課題を歳差しながら、経営計画を着実に実行する。
<p>6 労働環境の整備 共学の質を落とすことなくより健全な労働環境を追求し整備する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 健全な労働環境の整備：「働き方改革」に沿って教職員が安全・快適に勤務できるようにより良い労働条件を追求する。一日研修日検討委員会で研修日などについての検討を進める。有給休暇取得率の上昇、労働安全衛生委員会からの意見の吸い上げと改善、DXの有効活用の推進、労使双方の代表による労働条件の協議の推進、会議の回数・時間の削減、長時間労働を良しとしない職場風土作り等に取り組む。
<p>7 その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 創立100周年に向けて：法人、大学と連携して記念事業の円滑な実行に向けての準備実行を行う。 2) SDGsの取り組み：教職員、生徒への周知と取組みを進める。重点取り組み項目を策定し、身近な所から取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [2024年1月実施分]	学校協議会からの意見 (実施：2024年2月)
<p>学園創立100周年という大きな節目の今年度は、新型コロナの対応が五類扱いとなり、教育活動をコロナ前に戻していく取り組みを着実に進めた。施設整備計画により、大規模な工事を行い、生徒達には不便をかけた部分もあるが安全に工事をすすめることができた。4年振りとなる中高合同の体育祭を外部体育館で開催や高校の海外修学旅行の実施を成功裏に終えることができたことは教職員の頑張りや生徒達の協力の賜物である。10月には100周年記念式典を行い、これまで学園に携わって頂いた沢山の方々へ感謝の意をお伝えすると共に、次の100年に向けての決意表明を行うことができた。学校評価については、内部外部共に、教育全般についての評価が昨年度に比べて高くなった。昨年度の評価が低めだった学園と生徒保護者との連携については、出欠連絡ができる保護者ポータルサイトの導入等が評価され高評価に転じた。国際理解についても、校内研修の拡充や、春季・夏季の海外研修、海外からの生徒との交流等が評価され、大きく評価を上げた。学習指導、進路指導については一定の評価を得られているものの、授業力アップや進路情報の提供については生徒保護者のニーズに応えられるよう研修を継続する必要がある。生徒指導については、昨年度に引き続き、外部評価は高く概ね良好と思われるが、厳しい内部評価に表れる問題点について引き続き検討を行う。学校行事に関しては、昨年度に引き続き、高い評価を受けることができた。現状に満足せずバージョンアップを目指す。ICT化や施設用品の整備管理がまだまだ不十分との内部評価をしっかりと受け止めて改善に取り組む。100周年記念事業の食堂棟新築やグラウンドやテニスコートの人工芝化などの環境整備計画の着実な遂行と、生徒の成長を加速させる質の高い教育の提供に向けた研修の実施など、教職員一丸となり組織的に持続可能な取り組みを構築していく。</p>	<p>ICT関連については、保護者ポータルで連携は取りやすくなったが、さらに改良を進めてもらいたいとの意見や、スマホに危険なアプリを入れているなどの心配があるが、どのように対応していくかとの問題提起があった。スマホについては、大学では制限をかけずに、使うことが前提での扱いをしているとの意見があり、スマホにより人間関係の作り方が難しくなっているとの意見も、情操教育の必要性が高まっているとの意見も。生徒相談室の予約が取りにくい状況であれば、実施日を増やすなどの対応が必要ではないかとの意見があり、大学は相談日を来年度は増やす計画であるとの話が参考で出された。学校評価の外部と内部の評価に大きな差がないことから、全般的に教育活動が認められていると受け取ることができ、その評価に加えて立地などの好条件により入学生徒数が決まっており、現在受験生が多い状況は一定の評価がなされていることの証明だと認識している。地域との連携については、羽衣や東羽衣界隈が生徒達にとってほっとできる環境に整備されていることが大切で、行政とも相談の上、そのような街づくりを進めたいと取り組んでいる。高石市や学園をアピールする動画の作成を生徒がしてそれを流せる場所があれば良い、住民として学校があることで地域に活気が出ている、地域住民と生徒学生の接点を増やす取り組みを増やす方策の検討が必要、大学・中高が連動して学園として地域との連携を強化していきたいなどの意見が出された。難しい時代ではあるが、子供たちが将来を見据えて自分が努力して何かを身につけていく力をつけられるように、マスコミ等の情報に惑わされずしっかりと教育をお願いしたい。高大連携としては、大学の留学生を活用した国際交流を盛んにしてもらいたい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な重点取組計画・内容	評価指標	自己評価
I 教学内容の充実	より魅力ある学校を目指し、教育内容全般の見直しと実現にむけての準備	①将来の自立に向けた基本的な生活習慣の確立、マナー意識、規範意識を育む教育の推進、挨拶、コミュニケーション能力向上の取り組み。 ②新カリキュラムの教学内容の研究。 ③基礎学力の定着から論理的に物事を考え判断する力を育む指導の充実。探究学習を通しての思考力・判断力・応用力の育成。 ④生徒の目標達成に向けた丁寧な進路指導の充実。四年制大学進学者数を増やし進学実績の向上を目指す。組織的・継続的な対応の拡充 ⑤体育祭の外部室内施設での実施の企画、実行 ⑥ 教員の資質向上に向けて、研究授業の拡充	①生徒指導部を中心に、生徒の基本的な生活習慣の確立に向けて、組織の見直しを含めて、取り組むことができたか。 ②新カリキュラムに対して、大学入試を睨んだシラバス作成と授業構築が実行できたか。 ③探究学習の取り組みについての研究を行い拡充することができるか。 ④ 大学進学率を75%以上にし、国公立大学20名以上、関関同立80名以上の合格者を輩出できるか。 ⑤ 校内での放課後学習サポートの拡充や進路目標に合った課外授業の設定等、指導内容を整え、拡充することができるか。 ⑥ これまで学園グラウンドで実施してきた体育祭を外部室内施設で実施し、これまで以上に充実したものにする事ができるか。 ⑦ これまで単発で行ってきた研究授業を、研究授業期間を設定し、研修の機会を増やし教員の資質向上につなげることができるか。	① 組織の見直しを図り、取り組むことはできたが、課題は残されている。(○) ② 各教科で丁寧に対応することができている。(○) ③ 取り組むことはできているが、更なる拡充が必要である。(△) ④ 大学進学率は73.2%となり、目標には届かなかったが、国公立大合格は26名、関関同立合格は110名合格という結果で、目標を達成することができた。(△) ⑤ 拡充することができた。(○) ⑥ 9月にAsueアリーナ大阪で実施し、中高全校生徒が一堂に会して盛大な体育祭を行うことができ、生徒、保護者の満足度を高めることができた。(◎) ⑦ 2学期の10月に2週間の期間を設定し、研究授業期間を設定し、研鑽を高めることができた。(◎)
II グローバル人材の育成	すべての生徒が海外に目を向ける意識を高め異文化に触れ合う機会の確保と理解を深める取り組み	①オンライン英会話の活用の充実 ②英語資格試験取得の促進 ③高校海外修学旅行の実施と新方面の開拓 ④国内プログラムや海外留学プログラムの拡充 ⑤台湾とマレーシアの大学への進学について、情報提供とアドバイス・進学指導を実施する	①高校の取り組み強化として、英語の授業のシラバスにオンライン授業を入れて、毎週か隔週での実施できるか。 ②中学生は卒業までに全員英検3級以上合格、高校生は卒業までに半数が準2級を合格することができるか。 ③ 高校修学旅行について海外プログラムを拡充して海外への参加者を増やせるか。 ④ グローバルプログラムを拡充して、海外大学への進学者が10名以上を輩出できるか。	① 中高全学年で実施することができた。(◎) ② 目標達成をすることができなかったため、引き続き、取り組みを強化する。(×) ③ 高校修学旅行の海外選択2コースの参加者数は、国内コースに比べて倍近くになった。(◎) ④ 海外大学への進学者は3名であった。(×)
III DX戦略の推進	学園としてのDX戦略の策定と教室・校舎内の環境整備	①学力、探究心向上に向けた効果的な使用法の研究 ②オンライン授業についての研究と拡充 ③行事の動画配信や記録、情報発信・共有方法の研究 ④DX戦略による教職員の業務の効率化 ⑤より良いICT環境の研究と改善 ⑥生徒・保護者・教職員が連携して活用できるシステムの構築 ⑥ 施設のトータルデザインと保守整備	①PC全員購入から3年目に入り、PCを様々な場面で効果的に活用させることができるか。 ②学園のDX戦略の策定・実行を担当する教職員を配置し、校務支援システムの入れ替えをスムーズに終わることができるか。 ③生徒・保護者・教職員が連携して活用できるポータルサイトの構築をすることができるか。 ④DX戦略にそった施設のトータルデザイン案を策定できるか。	① 授業や探究活動、情報ツールとして、効果的に活用することができた。(○) ② 校務支援システムの入れ替えには着手できたが、まだまだ改善点や修正点がある。(○) ③ ポータルサイトの運用を開始することができた。(◎) ④ 100周年記念事業の施設整備計画の実行が中心となってしまった為、トータルデザイン案の策定はできなかった。(×)
IV 環境の整備	生徒がより快適に過ごせる環境を追求する取り組み	①地域から信頼させる魅力ある学園づくりの推進 ②生徒保護者のニーズに合った教育環境整備 ④いじめのない学校づくりの推進 ⑤部活動の活性化 ⑥施設補修・新規工事の年次計画の策定 ⑦食堂棟の新設、特別棟の改修リニューアル工事、講堂の耐震リニューアル工事の計画の実行 ⑧グラウンドやテニスコートの人工芝化の実行 ⑨生徒相談室・カウンセリングの拡充 ⑩現在実施しているアンケート方法、アンケート実施後の評価制度の検証と見直し	①生徒への学校生活についてのアンケートを実施し、結果を元に改善点を洗い出し、生徒保護者のニーズに近づけることができるか。 ②食堂棟の新設、特別棟の改修リニューアル工事等の計画を生徒への影響を最小限に抑えて実行し、安全に実施することができるか。 ③グラウンドやテニスコートの人工芝化についての計画を立て来年度の工事着工に繋げることができるか。 ④教員の傾聴力アップや生徒相談室・カウンセリングの拡充などを通して、生徒のメンタルケアにしっかり取り組めるか。 ⑤アンケートの実施方法の見直しと改善を図ることができるか。	① アンケートは実施し、改善点の検証は行うことができたが、課題の克服には至っていない。(△) ② 工事は安全に気をつけると共に、音や振動などの影響を少なくし、靴箱などの移動についても影響は最小限にとどめられた。(○) ③ 来年度の着工に向けて、グラウンドはめどを立てることができた。テニスコートについての検証が課題である。(△) ④ 生徒相談室・カウンセリングについては拡充をすることができた。(○) ⑤ アンケートの実施方法の見直しを来年度に行えるように検討をすることができた。(△)
V 経営基盤の確立	人事の活性化と教員の定数管理・労使の連携・適性な予算執行	①教職員の採用・人事配置・定数管理・人件費率等の適正な管理 ②適正な予算執行から健全な財務状況の確立 ③経費節減 ④人件費率の抑制 ⑤生徒募集活動の拡充 ⑥計画的な募集生徒数の設定と目標入学生徒数の獲得	①年齢、キャリアなどのバランスが取れるような人事採用ができるか。 ②計画通り予算執行できるか。 ③ 教学に必要な経費を見直し、節減を推進し、紙の節約や備品の丁寧な使用など、節減の為の啓発をし、経費の削減をすることができるか。 ④人件費率が60%以内に収められるか。 ⑤在校生の生徒募集広報チーム「VIVA 羽衣」への生徒参加数を20名以上に増加させられるか。 ⑥目標入学生徒数の中学70名、高校430名の入学生を獲得できるか。	① 適正な人事採用を行うことができた。(○) ② 予備費を使うものもあったが、概ね計画通りの予算執行をすることができた。(○) ③ 節減の啓発や取り組みを行ったが、まだまだ削減できる部分があるので継続して取り組んでいく。(△) ④ 人件費率はおよそ56.7%であった。(◎) ⑤ 参加人数は14名であった。(×) ⑥ 入学者数は、中学70名、高校401名となり、中学は達成できたが、高校は達成できなかった。減少要因を分析し、来年度の募集対策を策定し直す。(×)
VI 労働環境整備	働き方改革に沿って、より良い環境整備	①「働き方改革」に沿って教職員の安全・快適に勤務できるより良い労働条件の追及 ②研修日検討委員会での労働条件改善協議の継続 ③有給休暇取得率の上昇 ④会議の回数、時間の削減に向けた取り組みの強化等、長時間労働をよしとしない職場風土作り	①研修日検討委員会でも労使双方の代表者が意見交換をしながら労働条件改善に繋げられるか。 ②教職員全員が5日以上有給休暇を取得でき、有給休暇消化率を上げられるか。 ⑤ICTの活用などで仕事量を軽減し、教職員が効率良く力を発揮できる環境整備を行うことができるか。 ④ 教職員の退勤時間を早められるか。	① 研修日検討委員会は開催することができたが、改善に繋げるところまでは至らなかった。(△) ② 有給休暇5日以上を取得でき、かつ消化率66.2%で昨年度(63%)より、さらには全国平均(62%)よりも上げることができた。(◎) ③まだ途上ではあるが、新校務システムの導入やデジタル採点有料版を導入できた。(○) ④退勤時間は早められている。(○)
他 VII その他	その他	①創立100周年記念事業に向けた取り組みの強化 ⑦ 学園を上げたSDGsの取り組みの強化	①100周年記念募金の目標額を達成し、記念事業の成功につなげられるか。 ②重点取り組み項目を策定し、身近な所から取り組みをすすめられるか。	① 募金の目標額の達成はできなかった。(×) ② 生徒への啓蒙活動等、少しずつ取り組みを進めることができた。(△)